



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年7月29日

上場取引所 東

上場会社名 東洋水産株式会社

コード番号 2875 URL <https://www.maruchan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 今村 将也

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 平野 貴義 TEL 03-3458-5246

四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	103,127	23.3	10,727	27.7	11,330	25.9	8,649	34.3
2022年3月期第1四半期	83,640	△2.3	8,399	△19.1	8,996	△18.7	6,440	△23.3

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 23,793百万円 (310.6%) 2022年3月期第1四半期 5,795百万円 (△27.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	84.69	—
2022年3月期第1四半期	63.06	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	472,550	385,752	79.0
2022年3月期	454,670	367,145	78.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 373,468百万円 2022年3月期 354,882百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	40.00	—	50.00	90.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	40.00	—	50.00	90.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	194,000	13.8	16,000	8.1	16,700	6.3	11,300	3.0	110.65
通期	405,000	12.0	36,500	22.7	38,000	19.4	27,000	20.5	264.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期1Q	110,881,044株	2022年3月期	110,881,044株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	8,753,353株	2022年3月期	8,753,303株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期1Q	102,127,691株	2022年3月期1Q	102,127,870株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にありました。先行きにつきましては、感染対策に万全を期し、経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待されますが、ウクライナ情勢及び感染症が内外経済に与える影響や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があります。

このような状況の中、当社グループは「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」という企業スローガンの下で「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことを責務と考え取り組むとともに、厳しい販売競争に対応するため、より一層のコスト削減並びに積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は103,127百万円（前年同四半期比23.3%増）、営業利益は10,727百万円（前年同四半期比27.7%増）、経常利益は11,330百万円（前年同四半期比25.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8,649百万円（前年同四半期比34.3%増）となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間末の為替換算レートは、136.64円/米ドル（前第1四半期連結累計期間末は、110.61円/米ドル）であります。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

水産食品事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としての外出自粛が減少傾向となったこと等で、コンビニエンスストア向け商品の販売数量が伸長いたしました。また、各地の前浜事業や銀鮭商品の販売が好調に推移しました。その結果、売上高は7,349百万円（前年同四半期比17.8%増）、セグメント利益は、仕入価格の高騰や原油高の影響による仕入コスト、物流コストの上昇があったことから118百万円（前年同四半期比10.7%減）となりました。

海外即席麺事業は、新型コロナウイルス感染症拡大前と比較して需要が高い状況が継続する中、米国は袋麺では主力商品「Ramen」シリーズが増収となり、カップ麺では主力商品の「Instant Lunch」シリーズを始め、「Yakisoba」「Bowl」シリーズも好調に推移し増収となりました。メキシコは、主力商品のカップ麺、袋麺ともに好調に推移したことで増収となりました。その結果、売上高は41,555百万円（前年同四半期比72.0%増）、セグメント利益は、主原料価格上昇による原材料費増加があったものの、売上高の増加等により6,386百万円（前年同四半期比119.3%増）となりました。

国内即席麺事業は、カップ麺、袋麺ともに製造コストが上昇する中、安心・安全で高品質な商品を安定的に供給するため、6月に価格改定を実施し、価格改定後の需要底上げに努めております。カップ麺では主力商品である「赤いきつねうどん」「緑のたぬき天そば」を中心に拡売に努めたものの、カップ麺全体では減収となりました。袋麺では4月に発売した「マルちゃんZUBAAN!」シリーズの上乗せにより増収となり、即席麺全体では増収となりました。その結果、売上高は21,655百万円（前年同四半期比2.5%増）、セグメント利益は、広告宣伝費、動力費の増加等により1,273百万円（前年同四半期比52.2%減）となりました。

低温食品事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としての外出自粛が減少傾向となったこと等で、外食向け、事業所給食向けの業務用商品の販売が伸長いたしました。また、生麺では製造コストが上昇する中、安心・安全で高品質な商品を安定的に供給するため、4月に価格改定を実施したことに加え、主力商品の「マルちゃん焼そば3人前」シリーズ「マルちゃんの冷し生ラーメン3人前」シリーズを中心に拡売に努め増収となりました。その結果、売上高は13,452百万円（前年同四半期比1.4%増）、セグメント利益は、売上高の増加や価格改定の影響等により1,847百万円（前年同四半期比0.2%増）となりました。

加工食品事業は、フリーズドライ商品では5食入り袋スープ「素材のチカラ」シリーズ等を中心に販売先の拡大や家庭内喫食機会の増加等により増収となりました。米飯では3月に発生した福島県沖を震源とする地震による製造設備の損傷等の影響により一部の商品が休売となった影響等により減収となりました。その結果、売上高は4,394百万円（前年同四半期比0.6%減）、セグメント利益は、動力費の増加はあったものの、人件費の減少等により228百万円（前年同四半期はセグメント損失67百万円）となりました。

冷蔵事業は、今期に入り経済活動の正常化が進む中、前年までの国際的な物流の混乱等も徐々に落ち着きを見せ、冷蔵倉庫の取扱い物量が増加しました。また、通関や宅配等の付帯作業の取扱いも堅調に推移しました。その結果、売上高は5,750百万円（前年同四半期比4.7%増）、セグメント利益は、売上高の増加や省エネ対策等によるコスト削減はありましたが、エネルギー価格の上昇による動力費の増加もあり689百万円（前年同四半期比0.8%減）となりました。

その他は、主に弁当・惣菜事業であります。売上高は8,968百万円（前年同四半期比0.4%増）、セグメント利益は351百万円（前年同四半期比8.6%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末と比べ総資産は17,879百万円増加し472,550百万円、純資産は18,607百万円増加し385,752百万円となりました。この主な変動要因は、以下のとおりであります。

資産は、主に現金及び預金、機械装置及び運搬具が増加しました。負債は、主に支払手形及び買掛金は増加しましたが、未払費用が減少しました。純資産は、主に利益剰余金、為替換算調整勘定が増加しました。

この結果、自己資本比率は79.0%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の収束時期等が不透明であり、現時点で連結業績予想への影響を合理的に算定することが困難であるため、2022年5月13日に発表した見通しを変更しておりません。今後、修正が必要となった場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	112,922	121,910
受取手形、売掛金及び契約資産	56,688	54,542
有価証券	65,000	66,000
商品及び製品	16,467	18,107
仕掛品	387	428
原材料及び貯蔵品	9,459	12,555
その他	3,091	3,442
貸倒引当金	△611	△615
流動資産合計	263,406	276,370
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	74,641	75,756
機械装置及び運搬具(純額)	40,376	44,688
土地	34,994	35,373
リース資産(純額)	1,869	1,821
建設仮勘定	6,153	5,030
その他(純額)	1,160	1,148
有形固定資産合計	159,195	163,819
無形固定資産		
その他	1,311	1,762
無形固定資産合計	1,311	1,762
投資その他の資産		
投資有価証券	28,256	28,162
繰延税金資産	1,517	1,228
退職給付に係る資産	38	35
その他	945	1,170
投資その他の資産合計	30,758	30,597
固定資産合計	191,264	196,179
資産合計	454,670	472,550

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,452	31,124
短期借入金	378	369
リース債務	285	291
未払費用	24,072	20,943
未払法人税等	2,336	1,189
役員賞与引当金	139	18
固定資産撤去費用引当金	61	61
資産除去債務	5	4
その他	3,306	3,600
流動負債合計	59,038	57,603
固定負債		
リース債務	3,286	3,234
繰延税金負債	1,975	2,583
役員退職慰労引当金	322	299
退職給付に係る負債	21,510	21,456
資産除去債務	211	212
その他	1,181	1,409
固定負債合計	28,487	29,195
負債合計	87,525	86,798
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,969	18,969
資本剰余金	22,942	22,942
利益剰余金	302,223	305,766
自己株式	△8,234	△8,234
株主資本合計	335,901	339,443
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,330	8,317
繰延ヘッジ損益	46	72
為替換算調整勘定	13,329	28,276
退職給付に係る調整累計額	△2,724	△2,642
その他の包括利益累計額合計	18,981	34,024
非支配株主持分	12,262	12,284
純資産合計	367,145	385,752
負債純資産合計	454,670	472,550

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	83,640	103,127
売上原価	61,951	75,993
売上総利益	21,688	27,133
販売費及び一般管理費	13,288	16,406
営業利益	8,399	10,727
営業外収益		
受取利息	129	167
受取配当金	251	296
持分法による投資利益	43	33
雑収入	284	250
営業外収益合計	709	747
営業外費用		
支払利息	59	56
為替差損	20	51
雑損失	33	35
営業外費用合計	113	144
経常利益	8,996	11,330
特別利益		
固定資産売却益	0	0
補助金収入	138	111
その他	24	1
特別利益合計	163	112
特別損失		
固定資産除売却損	26	143
災害による損失	—	57
その他	31	6
特別損失合計	58	206
税金等調整前四半期純利益	9,101	11,236
法人税、住民税及び事業税	1,505	1,760
法人税等調整額	992	698
法人税等合計	2,497	2,458
四半期純利益	6,603	8,778
非支配株主に帰属する四半期純利益	163	128
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,440	8,649

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	6,603	8,778
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△827	△83
繰延ヘッジ損益	△5	26
為替換算調整勘定	△53	14,947
退職給付に係る調整額	92	86
持分法適用会社に対する持分相当額	△14	39
その他の包括利益合計	△808	15,015
四半期包括利益	5,795	23,793
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,672	23,692
非支配株主に係る四半期包括利益	122	101

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(米国会計基準ASU第2016-02「リース」の適用)

米国における在外連結子会社では、当第1四半期連結会計期間より米国会計基準ASU第2016-02「リース」を適用しております。これに伴い、借手のリース取引については、原則全てのリースについて資産及び負債を認識しております。

米国会計基準ASU第2016-02の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

本基準の適用に伴い、当第1四半期連結貸借対照表において投資その他の資産が251百万円、流動負債が163百万円、固定負債が87百万円それぞれ増加しております。なお、当第1四半期連結累計期間の損益及びセグメント情報に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
日本	6,059	—	21,135	13,260	4,421	5,490	50,366	8,862	59,229	—	59,229
米州	—	24,159	—	—	—	—	24,159	—	24,159	—	24,159
その他	179	—	—	—	—	—	179	71	250	—	250
売上高(注) 4	6,238	24,159	21,135	13,260	4,421	5,490	74,705	8,934	83,640	—	83,640
外部顧客への売上高	6,238	24,159	21,135	13,260	4,421	5,490	74,705	8,934	83,640	—	83,640
セグメント間の内部 売上高又は振替高	244	—	19	2	—	259	526	8	534	△534	—
計	6,483	24,159	21,155	13,262	4,421	5,749	75,231	8,942	84,174	△534	83,640
セグメント利益 又は損失(△)	132	2,912	2,665	1,843	△67	694	8,180	384	8,564	△165	8,399

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△165百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△286百万円、棚卸資産の調整額△16百万円及びその他の調整額137百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に海外子会社からのノウハウ料の相殺消去額であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

4 売上高は主に顧客との契約から認識された収益であり、その他の源泉から認識された収益の額に重要性はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
日本	7,006	—	21,655	13,452	4,394	5,750	52,260	8,899	61,159	—	61,159
米州	—	41,555	—	—	—	—	41,555	—	41,555	—	41,555
その他	342	—	—	—	—	—	342	69	411	—	411
売上高(注) 4	7,349	41,555	21,655	13,452	4,394	5,750	94,158	8,968	103,127	—	103,127
外部顧客への売上高	7,349	41,555	21,655	13,452	4,394	5,750	94,158	8,968	103,127	—	103,127
セグメント間の内部 売上高又は振替高	174	—	15	1	—	258	449	8	458	△458	—
計	7,523	41,555	21,671	13,453	4,394	6,009	94,608	8,977	103,585	△458	103,127
セグメント利益	118	6,386	1,273	1,847	228	689	10,543	351	10,894	△167	10,727

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

2 セグメント利益の調整額△167百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△313百万円、棚卸資産の調整額△66百万円及びその他の調整額212百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に海外子会社からのノウハウ料の相殺消去額であります。

3 セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

4 売上高は主に顧客との契約から認識された収益であり、その他の源泉から認識された収益の額に重要性はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。